

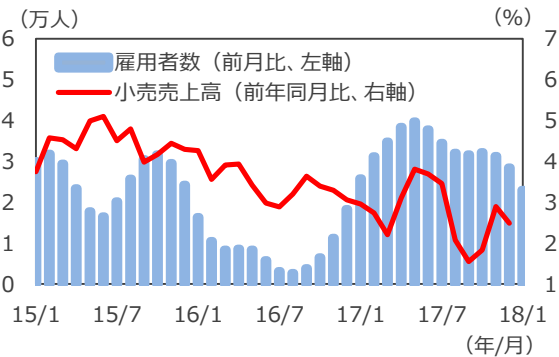
今日のトピック 堅調さを維持する豪州経済（2018年2月）

雇用、消費の持ち直しが豪ドルを下支えしよう

ポイント1 雇用は増加傾向が持続
個人消費を下支えしよう

- 2018年1月の雇用者数は、前月比1.6万人の増加となりました。月毎の変動を均したトレンド値は、同2.3万人増となり、失業率を引き下げるのに必要とされる雇用増加数+2万人程度を引き続き上回りました。企業の景況感指数が高い水準にあること等から、雇用は今後も増勢を維持すると予想されます。一方、失業率のトレンド値は前月比横ばいの5.5%でした。労働市場の改善や金利の低位安定等により、個人消費も徐々に上向きつつあります。
- 企業部門は、非資源セクターが好調さを保っているうえ、資源セクターも資源価格回復の効果が期待できます。こうした状況で、家計部門が立ち直ってくれば、景気拡大に一段と弾みがつく見通しです。

【豪州の雇用者数と小売売上高】

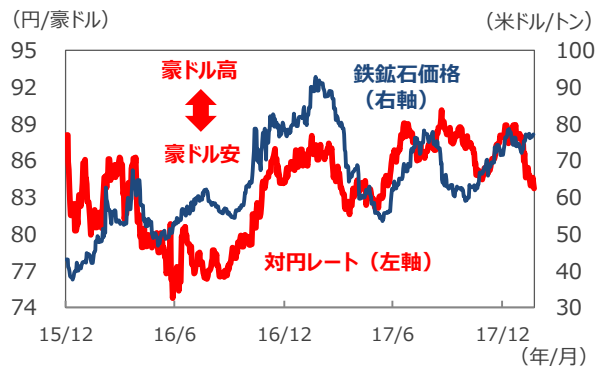


(注) データは雇用者数が2015年1月～2018年1月。雇用者数はトレンド値。小売売上高は2015年1月～2017年12月。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 金融政策は中立を維持へ
消費は上向きながら力強さに欠ける

- 豪州準備銀行（RBA）は、2月6日に開催した金融政策決定会合で、市場の予想通り政策金利を1.50%に据え置く決定をしました。
- 声明文からは、景気の持ち直しに自信を深めていることや、労働市場の回復に今まで以上に強気になっていることが窺われます。もっとも、物価や賃金の上昇ペースは依然として緩慢なうえ、家計消費も上向いてきたとはいえ依然、力強さに欠けるため、利上げを急ぐ様子は見受けられません。当面は、中立の政策スタンスが維持されると予想されます。

【豪ドルの対円レートと鉄鉱石価格】



(注) データは鉄鉱石価格が2015年12月31日～2018年2月21日。為替が2015年12月31日～2018年2月22日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 持ち直しが見込まれる豪ドル

- 足元の豪ドルの対円相場は、米国の金利上昇を契機とするリスク回避の動きの強まり等から、軟調な展開となっています。しかし、雇用、消費が改善傾向にあることや、資源価格が持ち直してきたこと等から、やがて堅調さを取り戻すと見られます。

ここもチェック! 2018年2月 6日 豪州の金融政策は16会合連続の据え置き（2018年2月）
2018年1月24日 雇用の拡大が続く豪州経済（2018年1月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。